

## 宿場町中津川宿

江戸時代にタイムスリップしたかのような、中津川宿の町並み。この町は中山道の69の宿場のうち45番目の宿場だった。中山道は別名「武士の道」とも呼ばれ、江戸と京都を結ぶ五街道のひとつだった。当時の街道はほとんど失われてしまったが、中津川のように当時のまま残っている場所もある。

かつて中津川は、国の中心に近い要衝として栄えた。中津川宿には、曾我家住宅（旧村長住宅）など江戸時代の木造建築が残っている。火災の延焼を防ぐために屋根の縁が高くなっているなど、東濃地方（岐阜県南東部）の一等地としての豊かさと地位を反映している。

中津川宿の路地裏や細い路地を歩くツアーでは、中山道の原風景を体験することができる。

また、このツアーでは地酒の蔵元であるはざま酒造や、栗きんとんと呼ばれる地元の栗菓子を提供する和菓子屋も訪れる。脇本陣などの歴史的建造物を見学することもできる。